



いながき

6月議会活動報告

救急車 救命士暴行事件

～ひどい隠ぺい工作～



いとう

吉川市議会では質問できず— 市民の安全と安心を守るため日夜懸命に取り組んでいる救命士が救急車で駆けつけた直後にいきなり暴行を受け、全治2週間の傷を負う事件があった。現場は即刻警察に公務執行妨害事件として被害届けを提出したが、警察が捜査に入ったところで告訴は急きょ取り下げになった。なにがあったのか。背後には有力者が関与との情報が流れたまま、事件は闇に沈もうとしている

吉川の6月議会では「公務の適正」を軸に質問書を提出。この事件について「市長は承知しているのか」確認を求めたが、消防関係は吉川・松伏消防組合の議会があり、市議会の質問にはなじまないとして削除の扱いとなった。

調査報告 No1。 - 説明責任を!

<暴行事件を追跡> この事件の取材、調査は難航した。幹部をはじめ事件当日の被害者たちもそろって口を閉ざし重苦しい雰囲気。10人をこえる人々の証言を重ねて明らかになった概要は次の通り。

暴行事件は、一年半前の12月30日。午後8時前。119番通報で救急車の出動要請が届いた。現場は中野の金物屋の2階。救急車(救命士3人)と消防車(消防士3人)が駆けつけた。救命士が人工呼吸など救命処置を施そうとしたところ、そばにいた男が「遅い」と声を荒げいきなりなぐりかかり、別の消防隊員が羽交い絞めで制止しても足でけるなど乱暴を働いた。事件は当日の当直責任者を通じて上層部に届けられた。

<全治2週間の診断書。告訴へ> 暴行を受けた救命士。翌日大晦日の12月31日。吉川の総合病院で診断を受けた結果、全治2週間の打撲傷。消防組合は許せない公務執行の妨害事件として告訴することを決定。正月早々総務担当幹部と被害を受けた救命士、羽交い絞めの現場責任者の3人が吉川警察署に出向いて直接届け出た。この3人に続いて警察では当日現場にいた別の3人も呼び事情聴取。しかしどうした訳か、この被害届けは後日全面的に取り下げられることになった。

<誰がなぜ。隠ぺい工作> 暴行事件の発生はひそやかに広まり、現場では周知の事実。だが、そこから先は上の方から、天の声が届いたからと伝わっているとのことで真相はヤブの中。命がけで消防や救命の業務に携わっている者が、その使命をまさに果たそうとしている時に妨害し負傷させる— この乱暴狼ぜきを黙認し、現場の憤りや苦勞への配慮もなく一方的に取り下げを命じる。誰が指示し強制したのか。職権の乱用とも言える行為の背景にはなにが隠されているのか。吉川・松伏消防組合の最高責任者。管理者は戸張吉川市長。副管理者は会田松伏町長。第一線で働く人々の士気を鼓舞するためにも幹部は毅然とした態度で真相究明につとめてほしいものです。7月10日に開かれる消防議会でも追及します。(いとう)

いながき・いとうの

6月議会報告

6月 29日(日)午前10時00分～
おしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117

Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com*市民改革クラブのホームページは いながき茂行のサイトと
統合しました <http://www.inagaki-s.com>

「新庁舎建設計画」は再検討すべきではないがき茂行

新庁舎建設の最大の課題は『建設費』です。東日本大震災復興関連事業や東京オリンピックのインフラ整備など、建築需要の高まりにより資材・労務単価の引き上げで建設費の高騰が続いています。

全国の自治体でも、入札不調により、建設延期や予算の大幅アップが見られます。

吉川市でも、当初の30億円から50億円を超える状況になつており、最終金額がどれくらいになるかは不透明な状況となつていきます。

現庁舎の問題点は十分理解していますが、環境が激変している中、大幅なコスト削減の見直しは必要で、現計画をやみくもに進めるべきではないとの立場で、質問・提案しました。

建設費は、52億円に膨らむ見込み

現計画を進めた場合、建設費総額の見直しについて、市長は『今後の資材価格、労務単価の動向など、不確定要素はあるが現時点では、新庁舎が49億5千4百万円、付属棟、外構工事を含め1億3千4百万円など計52億4千万円と、算出している』と答弁しました。

コスト削減の見直し内容は？

市は、5月29日の記者会見で『建設費の圧縮を目指す』と発表。現在進めている実施設計で、工期の短縮に繋がる工法の選択や内外装資材に、汎用品や既製品を積極的に活用し、コスト削減に努めたい。また、見直し検討は、一つ一つ積み上げて12月頃には積算が出るので、全体の建設費が見えてくる。との考えを示しました。

立ち止まって再検討すべきでは

現計画を進める場合でも、大幅なコストダウンが必要。1割程度ならともかく、6〜7

割もアップしたものを削減することは難しい。無理にやれば、新庁舎建設の目的にそぐわない建物になってしまう。だからと言つて簡単に起債(借金)を増やすことは出来ません。将来の財政計画や市民生活にかかわる他事業への影響も考える必要があります。

市民の納得を！凍結・延期・代案の検討も

現在の状況は異常事態。秩父市では、今夏に着工予定だった庁舎建設を延期しました。『実勢価格がどんどん上がり、積算がついていけない』『建設費高騰が沈静化するのを見極める』としています。

建設費の高騰や入札不調がどこまで続くのか見えない中、現計画の大胆な見直し・凍結・延期だけでなく再度、現庁舎の改修等、多角的視点で市民の納得が得られる検討が必要ではないでしょうか。



6月議会は6月2日〜6月16日まで15日間開催。
11議案を審議し、全議案を可決。内容は、専決処分事項の報告・承認3件、条例等の改正7件、人事案件1件及び補正予算2件(一般会計・下水道事業特別会計)。

議案審議 2日上程、4日に審議。市条例の一部改正(吉川市税条例・国民健康保険税条例・市職員の勤務時間、休日、休暇に関する条例他)。学校給食センター整備運営事業契約の締結について。固定資産評価審査委員会委員の選任について。補正予算を審議。

学校給食センター整備運営事業契約は、施設の設計、建設、維持管理及び運営を(株)吉川スクールランチサービスと契約したものの。総額62億2千3百万円余で、事業期間は平成43年3月31日まで。

吉川市では初めてのPFI事業となる。事業者選定は、総合評価一般競争入札で、審査実施委員会を設置し優秀提案をしたグリーンハウスグループを落札者とした。

委員会審査 5日・6日

総務水道委員会(伊藤)、建設生活委員会(稲垣)が、補正予算担当分に関連した内容を質疑。

一般質問

市指定医療機関排除問題。新庁舎建設、フロリテーション他(稲垣)『公務の適正さ』、産婦人科窓口払い、新トンネル。ビッグプロジェクト(新庁舎・東口開発・給食センター)

(伊藤)

新トンネルは欠陥施設 安全めざし改修を

いとう 正勝

武蔵野線下の新トンネル。吉川の幹線道路。昨秋の台風の折り、200ミリ余の雨で溢水。ラッシュ時4時間にわたって通行止め。当日現場で1時間程見守り、後日数回現場検証。施工と管理を受け持つ県土整備事務所の担当者にも話を聞いた上質問に立ちました。

新トンネルは既存の鉄路の下。大型車の通行に備え、高さ5m。幅22m余。難工事で、周辺道路との高低差は3.9m。「すりばち底」のため周囲の雨水も一緒に流れ込み、すぐに水没。危険な状態になる構造。

市長の答弁は新トンネルは県が管理している。排水機を備え、通行止めの警告表示など信号機を設置しており安全がはかられていると受けとめている。私の立場で軽々に「欠陥」があるとは言えない。今回は雨が集中し、

排水溝が役割を果たせず、水がはけなかった—との認識を示しました。県の出先の担当者も同様の見解でしたが、この問題は「排水の処理」まで考える必要があることは自明のことです。国土強靱化の旗をかかげる国交省。住民税など防災目的の特別課税も実施へ。大きな視点と構えで「欠陥施設」であることのアピールし、国費、県費の投入も求めている「調整池」設置など取り組みを提起しました。

東口開発は道路網や 河川改修の先行を

新駅東口の開発。吉川市では今年度中の都市計画決定、総事業費174億円で27年度着手を目指しています。着手に当たっては新駅活用のためにまず道路・交通網を整備し、南中学校周辺の冠水対策を考へ第二大場川の改修を先行するよう求めました。市長はそのことも念頭にあるが、現在はまだ地権者と調整中で勝手にはできない。デリケートな部分があることを

理解してほしいと述べました。

医師会の融和急げ 大学病院の誘致も

「産婦人科」問題に関連しては、市民の安全・安心のためにも、積極的に事態の收拾、融和に乗り出すように要望。現状では大災害に見舞われ、避難場所で感染症や病気が発生したとき、必要な医療の提供も危ぶまれると指摘。信頼と協力関係の構築を急ぐべきと強調しました。

大学病院の設置について。埼玉県が来年度の医療構想見直しを前に積算したところ高齢化の進展でベッド数千以上の不足が明らかに。厚労省が了解すれば県東南部に大学病院を誘致したいとの意向を示していることも紹介。これに対し市長も関心がありその方向を目指し検討するよう指示していると述べました。



関係づくり

「物やサービス」よりこれからは「関係」を大事に。—これは地方自治の大家の言葉です。

成熟した市民社会。庁舎、給食センター。橋、トンネル。医療、介護、子育て等々。施設の整備や制度の変更、充実は必要ですが、「住みやすさ」を実感するキーワードは、より良い「関係づくり」にある、そのことが大切との視点です。

この6月市議会にはベッド数29人の特別養護老人ホームを新設する予算が計上されました。上内川の高齢者施設と隣接の用地。27年度中にはオープン。監査・監督の権限は吉川市に委ねられています。地域に密着した安全な施設、環境。スキルを持った介護職員の確保は当然求められますが、それに加えて関与する人々の思いやりや温かさ。心のゆとりなど眼には見えない気持ち、その「信頼関係」づくりがとても大事ではということでしょうか。公務に携わる者はとりわけ広く見渡し、公正な立場で適切に判断し取り組む。「信頼感」その自覚を求める言葉だと受け止めています。挨拶のできる関係。一緒に集える関係。協調し協力できる関係。地域で仕事場で家庭でも柔らかな「関係づくり」が出来るといいですね。自戒をこめて—。

(いとう)

『学校給食センター』の整備運営 PFI 事業として実施!



市内の小中学校で提供されている『学校給食』が、市直営から民間業者に委託される。懸案であった老朽化した「学校給食センター」の改築を、民間資金を活用して、施設整備から維持管理運営まで一括で発注するPFI手法で整備運営を進めることになった。

「新学校給食センター」を建設し、現在稼働している第1・第2給食センター及び関・栄小学校給食調理場施設を廃止、新しい給食センターに集約する。旧施設は解体・撤去。

「新学校給食センター」は、川藤前新田(7,531 m²)に建設、最大提供食数は7,500食/日(小学校8校分、中学校3校分)。事業期間は、平成26年5月19日から平成43年3月31日まで。平成28年4月1日からスタートし、運営委託は15年間です。

昭和46年に開設された第1学校給食センターによって始まった小中学校の完全給食は、公設公営から、『官民共同による給食提供』の新しい時代に入っていきます。

事業者の選定は、総合評一般価格競争入札方式を採用。

事業者の選定は、入札価格に加え施設整備の性能、市の要求サービス水準との適合性や管理運営能力などを総合的に判断して決定。事業に係る学識経験者などで構成する「審査委員会」を設置し、入札参加者の書類審査、優秀提案を選定した。「審査委員会」の構成は、学識経験者3名と政策室長、総務部長の計5名で事務局は教育委員会が担当しました。

入札に応募したのは、グリーンハウス G、シダックス大新東ヒューマンサービス G、東洋食品 G の3グループ。審査の結果、グリーンハウスグループに決定。契約代金は62億2,389万9,247円。

財政負担は20%の削減効果

市はPFI事業で実施する利点を、①吉川市が直接実施する場合は、現在価値で56億5千万円、PFI事業では45億2千9百万円で20%の削減に。また、財政支出の平準化が期待できる②施設整備、維持管理及び運營業務について、事業者のノウハウや技術力が発揮され、より質の高い給食の提供、給食サービスの向上が期待できる。③市と事業者との役割分担や管理体制の整備で、リスク発生の抑制かつ迅速な対応ができる。としています。

市が実施する業務は

今まで通り市が行う業務は、調理食数の決定、献立の作成、食材の調達、食材の検収、検食、食育の指導、給食費の徴収管理などです。

編集後記

今議会の最終日、市民改革クラブに
対し反省を求めた「決議」が市民・公明
共産党の賛成でされた。
我々市民改革クラブの3月議会活動
報告の中に虚偽記載があったとして、記
事の訂正と反省を求めるとしている。
余りのバカバカしさに反論する気にな
りなれないが、「虚偽記載」があったな
どと事実無根の「ウソ」を、数の力で事
実」に塗り替えることは許されることでは
ありません。

そもそも、「議会活動報告」は議会で
の審議内容や結果について報告するだけ
でなく、それぞれの議員や会派の目を
通して、市政や議会について論評してい
ます。今起きていることや、考えなけれ
ばならない事柄について、情報を提供
し、我々の考え方や思いを伝え、市民と
の意見交換を図っているものです。

それに対し、自分達と政策や立場が異
なることや思いが違うからと言って、い
たずらに訂正を求めようなどというもの
はありません。

決議の目的が、我々に対する嫌がら
せ、いじめ、脅しとも受けとれます。
いずれにしても、内容を曲解し私たちを
貶めようとするのは慎むべきです。

今回の決議に賛成をした議員各位の
資質と品位が疑われる行為で残念です。
もっと、本来の議会、議員としての
活動をすべき」と言われている中、議会

で議論する必要のないすべきでないこ
とに時間と労力を費やしていることは、
税金の無駄遣いの極みだと思えます。

市民改革クラブは、これからも尚一
層、議会や市政の真実、そして私たちの
思いをしっかりと皆様にお伝えしてい
くことをお約束いたします。

いなぎ茂行